



そして、オモシロい大学に！
面白い世の中へしていく。



<https://www.teikyo-u.ac.jp/50anniversary/interview.html>

帝京大学 大学院 公衆衛生学研究科
Teikyo University, Graduate School of Public Health

2011年4月 開学



公衆衛生
みんな
Population
人々、集団
まもる
ヲ

School of Public Health
(SPH)

公衆衛生専門職大学院

取得できる学位

Master of Public Health (MPH)

Doctor of Public Health (DrPH)

School of Public Health (SPH)

- 公衆衛生の**実務家**を育てる**専門職大学院**
※ SPHは日本で4校
- 公衆衛生を**体系的に学ぶ**場
- 「公衆ノ生ヲ衛ル」ことを考えているなら
バックグラウンドを問わない。
→ **医療従事者以外も入学可能**

帝京大学大学院

教職研究科

理工学研究科

外国語研究科

文学研究科

経済学研究科

法学研究科

医療技術学研究科

薬学研究科

公衆衛生学研究科

医学研究科



帝京大学大学院

教職研究科

理工学研究科

外国語研究科

文学研究科

経済学研究科

法学研究科

医療技術学研究科

SPH

公衆衛生学研究科

医学研究科

衛生学公衆衛生学講座



帝京大学SPH 教育とカリキュラムの特徴

1. 教育
 - (1) 基本5分野
 - (2) 問題解決型アプローチ
 - (3) コンピテンシー
2. カリキュラム
 - (1) 取得できる学位と卒業要件
 - (2) SPHの一年
 - (3) 課題研究と指導体制

わたしたちは、皆様に
学位を与えるために
教育していません。

この世はどうだ？
社会を変えるために。

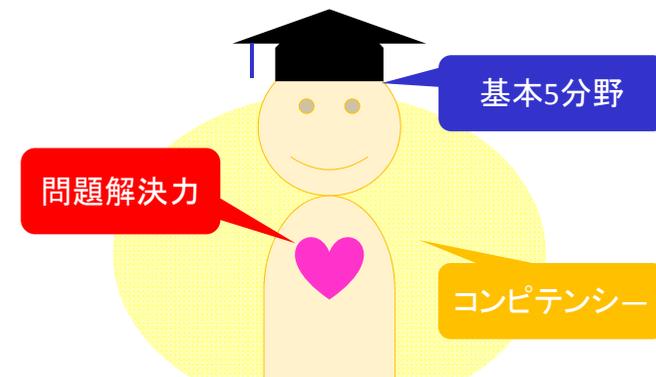
帝京大学SPHを卒業するとこんな人になる。

教育目的
ディプロマ・ポリシー(学位授与に関する方針)
カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成方針)

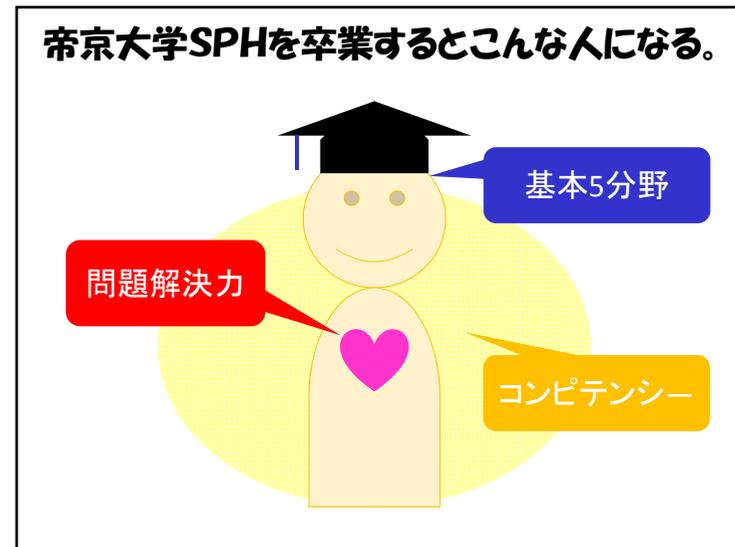
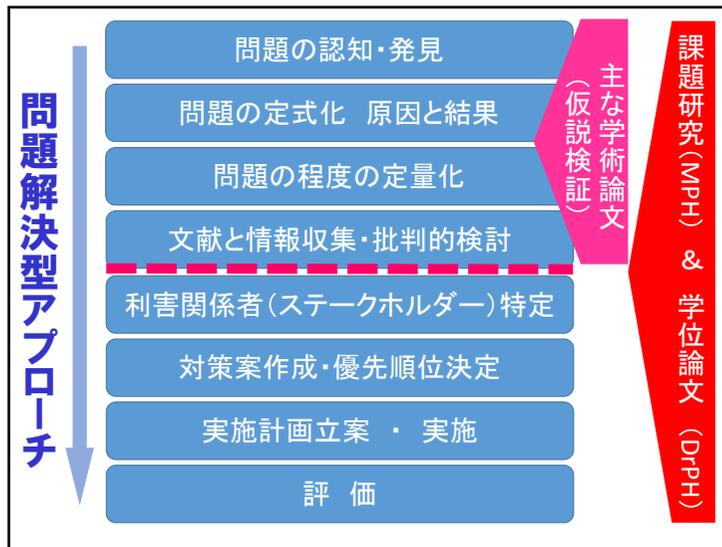
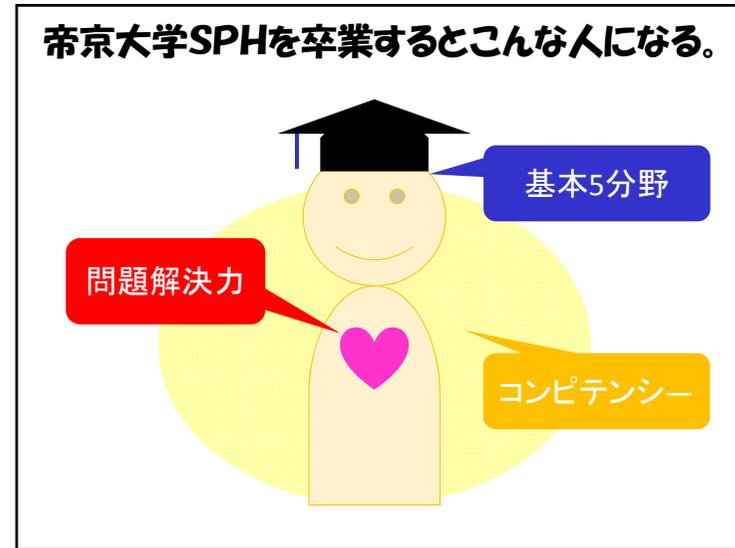
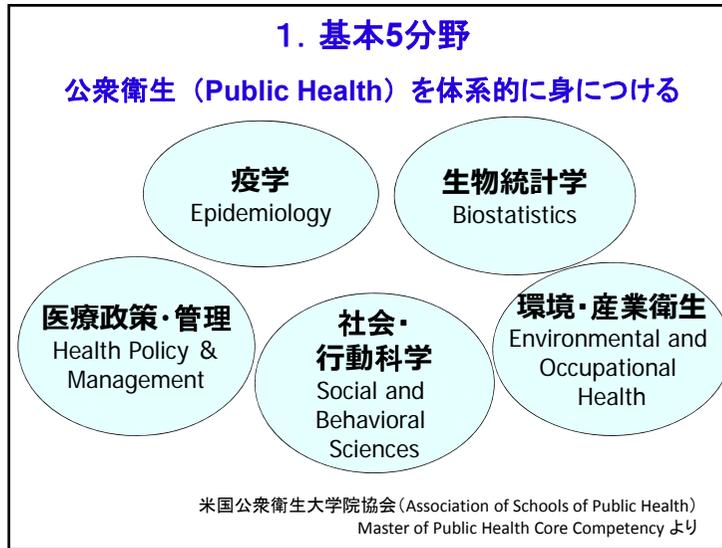
履修要項

MPH 3-4頁
DrPH 99-100頁

帝京大学SPHを卒業するとこんな人になる。



この3つは何なのか。なぜ大切か。



コンピテンシー
 高い成果や業績をあげる人の行動特性
 = 能力・資質

コンピテンシー基盤型教育
 「アウトカム基盤型教育」とも呼ばれる。
 知識、技能、態度などを併せ持つ、包括的な実践力を磨く。

知識 → 応用力 → 表現力 → 行動

knows → knows how → shows how → does
(参考) Miller の臨床能力評価

公衆衛生を、やる。

**公衆衛生の大学院
学位の整理**



	Research based 研究に重点	Professional school 専門職大学院
Master (修士)	Master of Science	Master of Public Health
Doctor (博士)	Doctor of Philosophy (Ph.D) Doctor of Science	Doctor of Public Health (DrPH)

• Association of School and Program of Public Health.
 • Presentation from Dr. Ian Lapp
(The 9th Teikyo-Harvard Symposium in Boston, September 4, 2014)

履修要項 MPH 4 頁、DrPH101 頁

帝京大学SPHコアコンピテンシー

MPH	DrPH
1. 職業意識	1. 職業意識と倫理
2. 多様性と文化	2. 批判的分析
3. コミュニケーションと 情報科学	3. 地域および文化への 志向
4. 計画策定	4. コミュニケーション
5. 指導力 (リーダーシップ)	5. 運営管理(マネジメント)
6. システム思考	6. 指導力(リーダーシップ)
7. 公衆衛生に必要な 生物や医学の素養	7. アドボカシー
8. 国際通用性	8. 国際通用性

Change Agent

帝京大学SPHを卒業するとこんな人になる。

問題解決力

基本5分野

Change Agent

コンピテンシー

この3つは何なのか。なぜ大切か。

帝京大学SPH 教育とカリキュラムの特徴

この背景

1. 教育
 - (1) 基本5分野
 - (2) 問題解決型アプローチ
 - (3) コンピテンシー
2. カリキュラム
 - (1) 取得できる学位と卒業要件
 - (2) SPHの一年
 - (3) 指導体制





帝京大学の 教育指針



Since 1966 歴史をしのぐ未来へ

実践を通して論理的な思考を身につける 「実学」

異文化理解の学習・体験をする 「国際性」

必要な知識・技術を偏ることなく幅広く学ぶ 「開放性」

自分流



帝京大学 海外学術提携校・病院一覧
帝京大学創立50周年記念史より



帝京ハーバード国際シンポジウム



西暦	テーマ	場所
1 1994	21世紀の環境・健康・メディカルケア	東京
2 1996	職場の環境と健康	ボストン
3 1998	医療とヘルスケアの評価:EBMに向けて	東京
4 2000	高齢化と健康:環境, 労働, そして行動	米国ケンブリッジ
5 2002	遺伝科学, 政策, そして公衆衛生	英国ケンブリッジ
6 2006	災害に備えその被害を最小に	
7 2009	The Healthy Hospital ✓	
8 2012	医師の役割:過去・現在・未来	
9 2014	公衆衛生の新しい大学院教育	ボストン
10 2016	過去をしのぐ未来へ。 社会を変える保健医療専門職の力	東京

今年9月16-19日
9月の連休は帝京で！

harvard.edu Photographic Services Resources for Journalists HPAC

HARVARDgazette

NEWS+

Rethinking public health education

September 12, 2014
News from Harvard schools, offices, and affiliates

Flashed on screen at a recent Harvard symposium was an illustration from the year 1308 showing students in a lecture-style class. Some are fooling around. Some look bored. One is even sleeping.

Next on screen: a modern-day photo of a lecture-style class, surprisingly similar to the 1308 illustration. The professor is at a lectern — and the students, sitting in rows before him, look just as bored as their medieval counterparts.

The images were presented during a series of talks on innovations in education at the 9th Teikyo-HSPH Symposium, on "Training Public Health Leaders for the 21st century," held Thursday, Sept. 4 at the Harvard Medical School's Joseph B. Martin Conference Center. The symposium, held every two years, is jointly

第9回 帝京ハーバードシンポジウム

<http://news.harvard.edu/gazette/story/newsplus/rethinking-public-health-education/>

帝京大学SPH 教育とカリキュラムの特徴

1. 教育

- (1) 基本5分野
- (2) 問題解決型アプローチ
- (3) コンピテンシー

2. カリキュラム

- (1) 取得できる学位と卒業要件
- (2) SPHの一年
- (3) 課題研究と指導体制

背景
実学
国際性
開放性

取得できる2種類の学位

Master of Public Health (MPH)
公衆衛生学修士(専門職)
1年・2年コース 2011年～

Doctor of Public Health (DrPH)
博士(公衆衛生学) 2014年～

MPH 修了要件

履修要項 MPH 10頁

課題研究 6単位
→ 最終報告と審査

選択科目 10単位以上
(基本5分野の選択科目
実習, ハーバード講義,
インターンシップを含む)

必修科目 16単位
(基本5分野の必修科目)

**32単位
以上
取得**

※ 必修科目のうち「医学基礎・臨床医学入門」は医療系学部出身者は単位認定申請を行うのみで履修できる。
※ 年間の履修科目の登録制限は40単位

DrPH 修了条件

履修要項 DrPH 106頁

MPH取得者以外:必修科目 16単位
(基本5分野の必修科目)

選択科目 自由に2単位以上
(基本5分野の選択 実習・ハーバード講義を含む)

専門科目 2単位・共通科目 3単位

特殊論文 12単位(4単位×3年)

**19単位
以上
取得**

Change Agent

フィールドでの活動・実務

ドクターズセミナー

学位論文(成果物) 計画審査、中間審査、学位審査会

履修要項 MPH 31頁、DrPH 124頁

授業科目一覧と時間割

- 4学期制 (前期 a, b 学期 後期 c, d 学期)
 - + 夏季 (s 学期 実習)
 - + 冬季 (w 学期 ハーバード特別講義, 実習)
- ※ 調査・研究法概論 (4月集中), インターンシップ (通年)
- 必修科目: 前期に集中 **特に水・木曜日** に設定

MPH 時間割

金曜日の課題研究

教員との調整により日程変更可能

43科目

20. 授業時間割

平成28年度公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻専門学位課程時間割

曜日	時間	履修			
		前期課程 (1学期) 4/6(水)~6/10(金)	後期課程 (2学期) 6/13(月)~8/5(金)	夏季課程 (3学期) 8/20(土)~11/24(水)	冬季課程 (4学期) 11/15(火)~2/10(金)
月	1 9:00			企業保健学	
	2 10:45	医学基礎: 臨床医学入門			
	3 12:15				
	4 1:00	医学管理学・ 安全管理学概論	医療経済学	医療経営学演習	
	5 1:45				
	6 3:30				
火	1 9:00	産業環境保健学概論	地域保健学	応用生物統計学	
	2 10:45	医療情報学演習		データ分析演習	
	3 12:15	保健行政・医療管理学概論		臨床統計学概論	
	4 1:00	健康教育学	国際保健概論	医療政策概論	臨床統計学演習
	5 1:45				
	6 3:30				
水	1 9:00	基礎生物統計学	医療保健学		
	2 10:45		疫学・公衆衛生学 実践演習	社会医学	
	3 12:15	健康行動科学概論			
	4 1:00	公衆衛生学概論	ヘルス・イノベーション概論	国際保健学演習	産業中毒学
	5 1:45				
	6 3:30				
木	1 9:00		医療情報学概論	質的研究	
	2 10:45				
	3 12:15				
	4 1:00	疫学概論		臨床疫学概論	
	5 1:45				
	6 3:30		スタディ・クリティック (課題)		
金	1 10:30				
	2 12:15				
	3 1:00				
	4 1:45				
	5 2:30				
	6 3:15				
	7 4:00				
	8 4:45				

※課題研究(必修)については、2年コースは2年前、1年コースは後期に集中して行う。

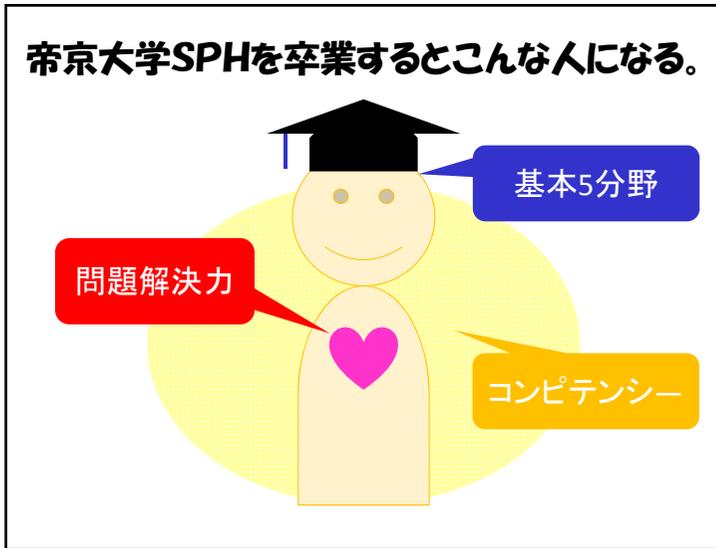
帝京大学SPH 教育とカリキュラムの特徴

1. 教育
 - (1) 基本5分野
 - (2) 問題解決型アプローチ
 - (3) コンピテンシー
2. カリキュラム
 - (1) 取得できる学位と卒業要件
 - (2) SPHの一年
 - (3) 課題研究と指導体制

**背景
実学
国際性
開放性**

帝京大学SPHの1年





帝京大学SPH 教育とカリキュラムの特徴

- 1. 教育
 - (1) 基本5分野
 - (2) 問題解決型アプローチ
 - (3) コンピテンシー
- 2. カリキュラム
 - (1) 取得できる学位と卒業要件
 - (2) SPHの一年
 - (3) 課題研究と指導体制

背景
実学
国際性
開放性

課題研究・学位論文(成果)とは

MPH

国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して、各々の専門領域で指導的立場で問題解決型の対処ができる、すなわち現場での実践に資する高度専門職業人養成の**集大成**として課題研究を行う。

DrPH

+ リーダーシップ、本当に社会を変えるのか？

基本5分野 問題解決アプローチ コンピテンシー
総合力

課題研究指導体制

学生
課題研究指導教員

全体報告会
グループ検討会

全体報告会 7月:中間報告会
12月:最終報告会



半年に2~3回のグループ検討



全体報告終了後のグループ振り返り

個人と課題研究指導教員による指導



課題研究指導体制

学生
課題研究指導教員

全体報告会
グループ検討会

全体報告会 7月:中間報告会
12月:最終報告会



半年に2~3回のグループ検討



全体報告終了後のグループ振り返り

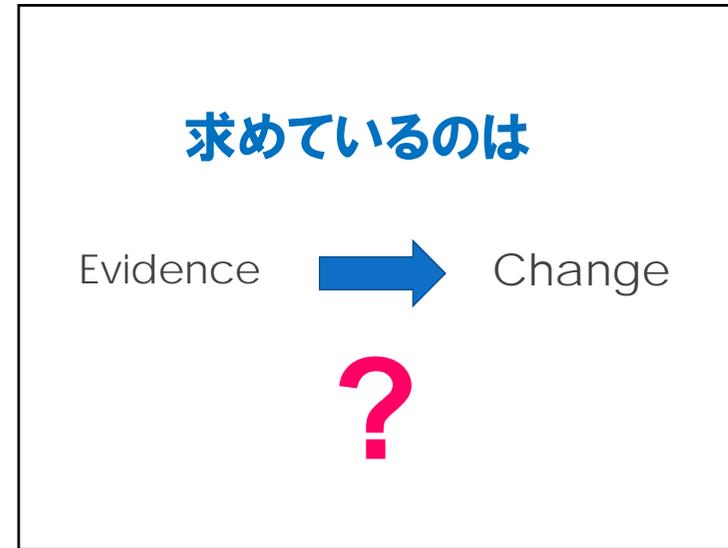
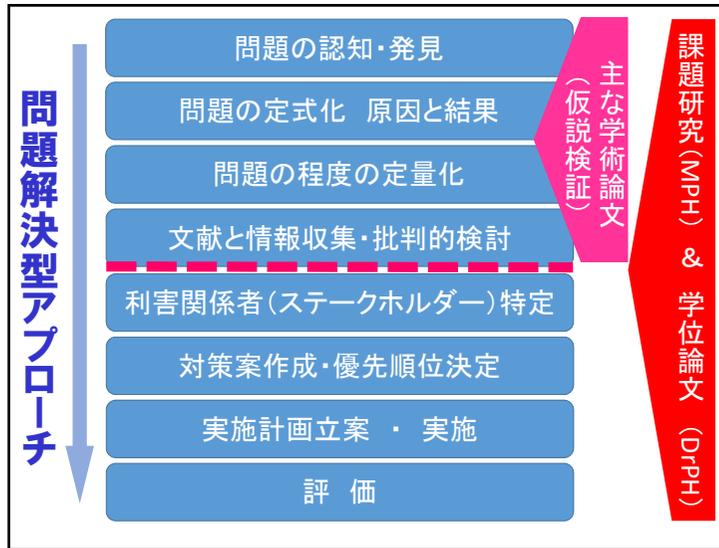
個人と課題研究指導教員による指導



課題研究 卒業生の成果

ただいま
回覧中

- 小児緊急施設間搬送の搬送手段の検討
- 障がいのある在宅脳卒中患者の長期にわたる改善と主体性再獲得のプロセス
- 帝京大学におけるたばこ対策推進の検討
- ラオスで安全な出産は実現できるか？
— 熟練分娩介助者による出産の選択要因を探る—
- フィリピンにおける健康・栄養評価と大豆食品を介した健康教育の実践
- 中学生の心身の健康のための早期介入を目的とした食育体制の構築に向けて
- 風しんワクチン接種の医療経済評価
- 臨床医による研究マインド醸成に向けた実証研究
- 個人レベルのソーシャル・サポートと被災地の人々の健康 など



帝京大学SPH 教育とカリキュラムの特徴

- 1. 教育
 - (1) 基本5分野
 - (2) 問題解決型アプローチ
 - (3) コンピテンシー
- 2. カリキュラム
 - (1) 取得できる学位と卒業要件
 - (2) SPHの一年
 - (3) 課題研究と指導体制

**背景
実学
国際性
開放性**

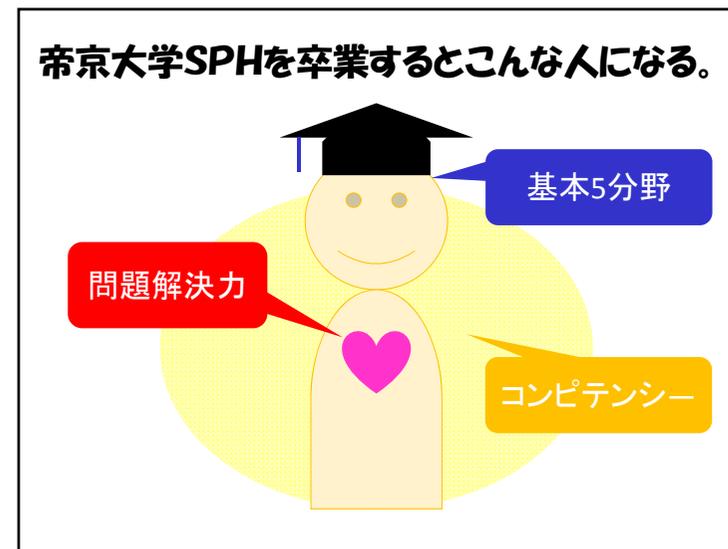
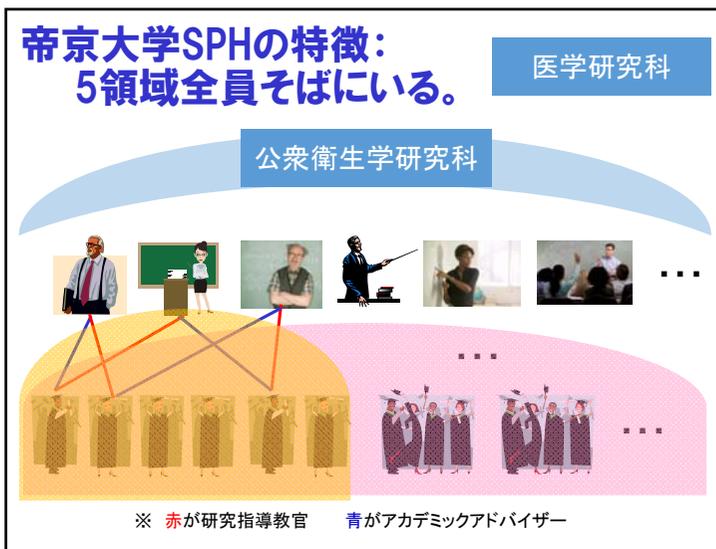
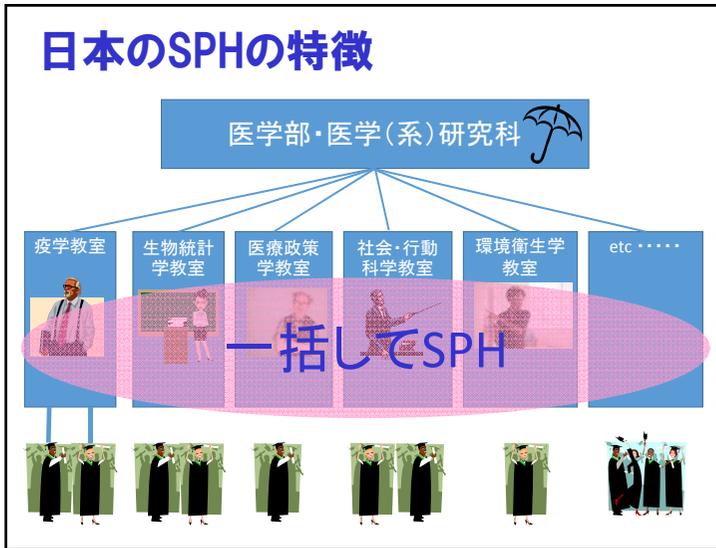
教育体制:あなたを支える人々

課題研究(学位論文) 指導教員

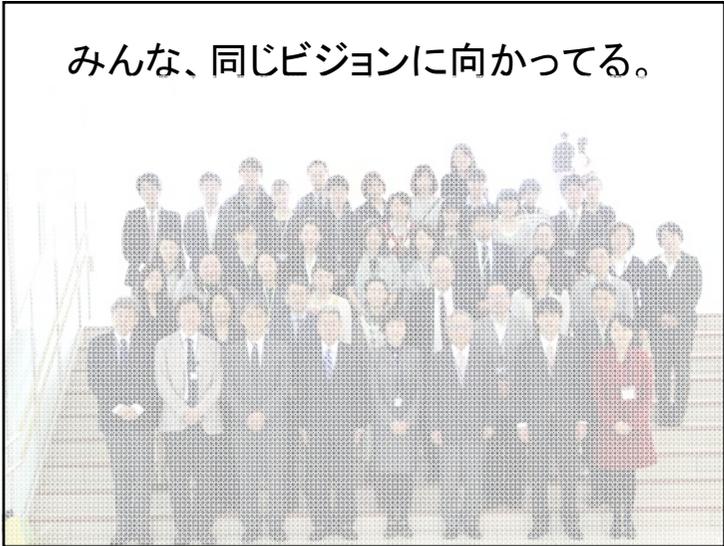
授業の先生方
= 課題研究を支えるグループと全体体制

アカデミックアドバイザー
履修要項 MPH 26頁

クラスメート、卒業生、
非常勤講師、連携先、etc...



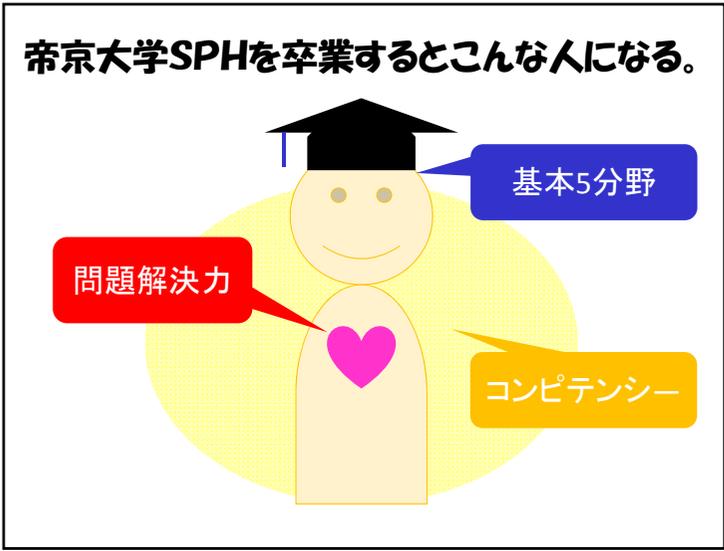
公衆衛生を、やる。



帝京大学SPH 教育とカリキュラムの特徴

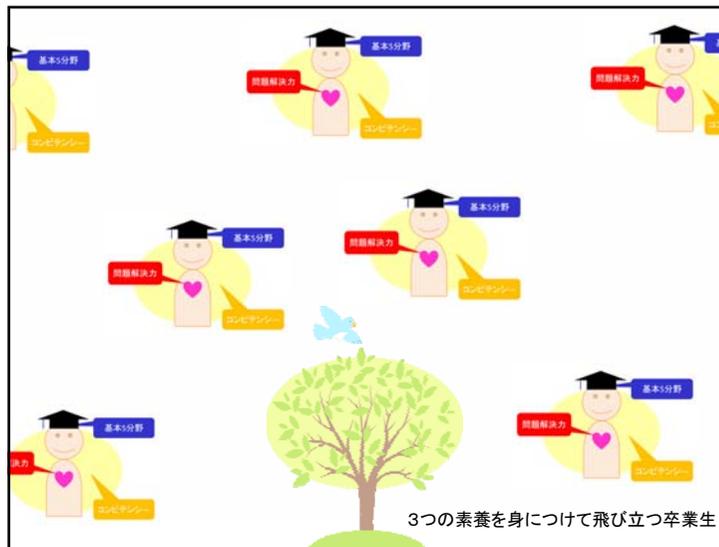
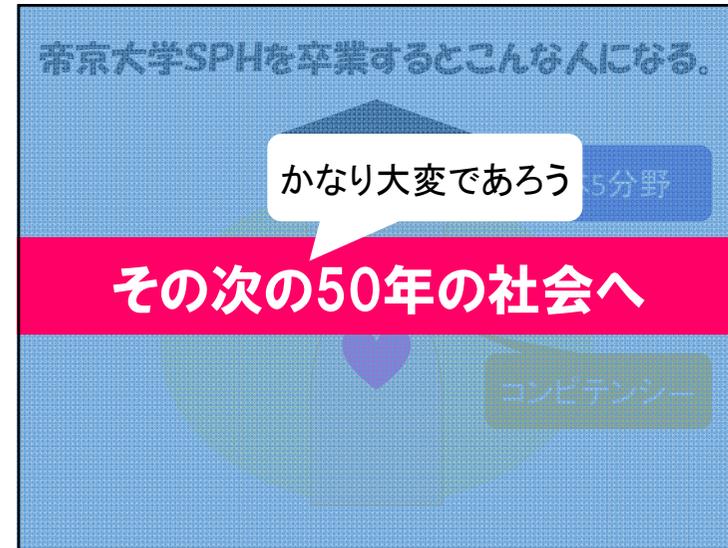
- 1. 教育
 - (1) 基本5分野
 - (2) 問題解決型アプローチ
 - (3) コンピテンシー
- 2. カリキュラム
 - (1) 取得できる学位と卒業要件
 - (2) SPHの一年
 - (3) 課題研究と指導体制
- 3. 2016年 —その先の50年へ—

**背景
実学
国際性
開放性**



卒業生の進路

- | | |
|----------|--------------------------------|
| 1. 政府系 | 国家公務員、地方公務員 |
| 2. 臨床医学 | 病院勤務医師、看護師、
クリニック院長、薬剤師、助産師 |
| 3. 産業衛生 | 産業医、企業保健師 |
| 4. 民間企業 | 製薬企業、臨床検査機器メーカー |
| 5. NPO | |
| 6. 教育・研究 | 大学教員、研究機関研究員 |
| 7. 進学など | 博士課程進学、海外留学 |

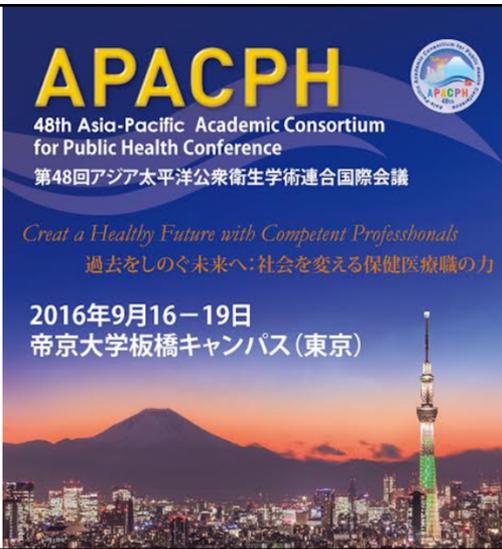


帝京大学
50周年記念
国際学術集会

第10回
帝京—
ハーバード
シンポジウム

学部・センター
主催イベント

9月16～19日



APACPH
48th Asia-Pacific Academic Consortium
for Public Health Conference
第48回アジア太平洋公衆衛生学術連合国際会議

Create a Healthy Future with Competent Professionals
過去をしのぐ未来へ：社会を変える保健医療職の力

2016年9月16－19日
帝京大学板橋キャンパス(東京)



TEIKYO UNIVERSITY

歴史をしのぐ未来へ

あなた自身の

すべては
公衆ノ生ヲ衛ルために



春の帝京大学板橋キャンパスと
石神井川の桜

4月にお会いできることを
楽しみにしております。